環境パートナーシップちば だより
― つながれ ひろがれ ―

第１７１号
特定非営利活動法人
環境パートナーシップちば

TEL：090-8116-4633
E-mail：info@kanpachiba.com
https://kanpachiba.com/

第 31 回「エコメッセちば 2026」開催！

未来へつなぐ環境　～環境から広がる防災のヒント～

エコメッセちば実行委員会

オンライン開催：10 月 10 日(土) 10：00～　　会場：エコメッセ HP
会場開催　　：10 月 11 日(日) 10：00～16：00　会場：幕張メッセ国際会議場

第 31 回となる「エコメッセちば 2026」は、**未来へつなぐ環境　～環境から広がる防災のヒント～**をテーマに、新しい一歩を踏み出します。これまでに出展していただいた企業・団体の方はもちろん、新しい出展団体の方にも幅広く参加して頂ける場となることを目指しています。
実行委員会企画では“君も今日からぼうさいヒーロー”と題した**わくわくぼうさい体験**企画を実施します。気候危機や地球沸騰化の時代を迎え、日常的に自然災害が頻発する中、日常生活のなかでも防災を意識した行動ができるアイディアを体験できます。子供から大人まで環境に関することを体験的に楽しく学べる企画が盛りだくさんです。ぜひ親子で会場にきて、様々な企画にご参加ください。

好評の**SDGsビンゴ**や生産者が直接販売する SDGs **マルシェ**も引き続き実施されます。また、千葉県主催の**若者が主役の環境保全活動アイデアコンテスト**も行われます。
エコメッセちばは HP もリニューアルして新しいイベントとして再出発します。これまでの 30 年間とは異なる新たな 30 年を目指して、一緒に新しい時代に踏み出しましょう。どなたにも楽しんでいただけるイベントを目指す、新たなエコメッセちばにぜひご参加ください。多くの方のご参加をお待ちしています。

「エコメッセちば 2026」の詳細は
https://www.ecomesse.com/ をご覧ください。
「エコメッセちば 2026」でお会いしましょう！

若者が主役の環境保全活動応援事業（千葉県主催）

「若者が主役の環境保全活動アイデアコンテスト」開催します

－若者たちに応援の一票をお願いします！－

日時：令和 8 年 10 月 11 日（日）12:30～14:30
会場：幕張メッセ国際展示場（エコメッセちば 2026 会場　2 階 201 室）

「若者が主役の環境保全活動応援事業」は、今年で 4 年目となり、当会ではこの事業を受託し、県とともに若者の挑戦を応援しています。
アイデアコンテストは 8 月 31 日に応募を締め切り、7 団体の応募がありました。書類選考を経て、エコメッセ当日の二次審査には 5 団体が出場します。二次審査は、６名の審査員による審査と、来場者による投票により行われます。
二次審査に出場する 5 団体は下表のとおりです。

参加団体	活動タイトル
合同会社 2000s	ムーブメント～廃材アート×音楽イベントで、SDGs のムーブメントを作る
SOBALUTION	特定外来水生植物の早期発見システム「WARN」
NESO	学生団体から千葉大発ベンチャーへ！ 大学生が動かす日本の科学と未来
早稲田大学環境ロドリゲスやまなび	若者の力で長柄町の竹林を守る
また帰ってくる場所つくり隊	地域を好きになることから始める環境保全 － 若者と地域が「共につくる」関係づくり

これら５団体は、高校生、大学生、社会人とさまざまです。各年代の若者が、それぞれの若者らしさを発揮したアイデアを披露してくれます。
なお、このコンテストは、アイデアにとどまらず、活動を前提としています。1 位から 3 位の団体には活動の原資として賞金が授与され、受賞後に具体的な活動が始まります。コンテスト会場では、若者の本気のプレゼンテーションを是非聞いていただき、投票という形で応援をお願いします。
アイデアのとりまとめに向けて、下記の協力団体に若者の現地体験機会を受け入れていただきました。

■waco（鎌ヶ谷市）
■グリーン・エコ株式会社（千葉市）
■On.Re.Project（市原市）
■ヤマナハウス（南房総市）
■まるごといんばぬまプロジェクト（印旛沼周辺）

そのほか、若者の要望に応え、県の関係課によるオンライン相談も開催されました。各団体や行政が考える環境課題や解決方法をヒントに、若者らしいアイデアにまとめられたのではと期待しています。

10 月 11 日は、エコメッセ・アイデアコンテストへのご来場をお待ちしています！

（文責：山内 可奈子）

令和 7 年度アイデアコンテスト授賞式

千葉市公民館講座

「マイクロプラスチックを探そう」

7 月 28 日におゆみ野公民館で「マイクロプラスチックを探そう」の講座を実施しました。参加者は、子ども 12 名、おとな 6 名でした。

「マイクロプラスチックって知ってる？」という質問から始めましたが、全然聞いたことない、という子から、海岸にあるんだ、と知っている子まで、いろいろでした。

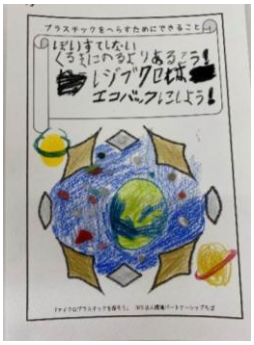
マイクロプラスチックとは 5mm 以下のプラスチックのことです。海岸に落ちていると思う人が多いようですが、あなたや私の家にでも、どこにでもあるんだよ、というお話をしたあと、千葉市検見川浜の砂を少しずつ配り、その中からピンセットやスプーンでマイクロプラスチックをつまみ出してもらいました。

その後はまたレクチャーに戻り、私たちの身の回りのさまざまなものがマイクロプラスチックの発生源であり、特に、非常に小さい大きさのナノプラスチックは、私たちの体の中に入って、そこで有害化学物質が溶け出す可能性があることなどをお話ししました。

マイクロプラスチックについていろいろ知ったあと、つまみ出したマイクロプラスチックを使って、メッセージカードを作りました。カードには、マイクロプラスチックアートとともに、講座で学んだこと、感想などを書いてもらいました。

それぞれが素敵なメッセージカードを作ってくれました。

マイクロプラスチックについては、子どもにはちょっとむずかしいこともお話ししてしまったのですが、メッセージカードやアンケートに書いてくれたことを見ると、みんなが自分なりにマイクロプラスチックのことを理解してくれたことが良くわかり、うれしくなりました。



（文責：小倉　久子）

千葉市公民館講座報告（葛城公民館）

7 月 31 日（水）、葛城公民館（千葉市中央区）主催の『３R とリサイクル工作　裂き織コースター作り』で講座を行いました。

当日は 7 名の小学生が集まりました。あれ、見覚えのあるお顔が。そのお子さんは、昨年も環パの講座に参加して、楽しかったから今年も応募したとのことでした。

さて、まずは「裂き織、３R、SDGs」についての座学です。布は「織物」「編物」「不織布」と３つに大別できますが、それぞれに３R の工夫があります。今回は織物なので「継はぎ」「刺し子」「裂き織」の実物を見てもらいながら、昔から貴重な布を大切に使うために、様々な知恵があり工夫されてきたことを話しました。

そして制作です。裂き織は根気のいる手仕事ですが、子ども達は各自イメージを膨らませ工夫をしながら、時間内にすてきな作品を完成させました。

SDGs についてですが、目標達成期限としている 2030 年が迫る今、日本では色あせた流行語になり、きれいごとを言っていられないという殺伐とした感の漂いも否めません。世界が加速度的に荒れていく嫌な時代が続いています。８月 13 日の線状降水帯による甚大な被害が千葉県を襲う事態も、今後さらに顕著になる異常気象の一声にしか過ぎないのかもしれません。いよいよ絶望的で、力尽きそうな気分になります。しかし、これからを生きる子ども達は、弱音を吐いていられません。

環境を守ることは、結局は社会や個人の命と尊厳を守ること。構造や歴史を知り理解すること、そして、裂き織のような手仕事の、微妙な力加減や工夫を網羅し、作り上げる喜びが体の中から湧き出る体験は、微力であっても子どもたちの生きる力に役立つ、そういう思いで、公民館講座に取組んでいます。

（文責：中村　明子）

令和８年８月「印旛沼クリーン大作戦」活動報告

NPO 法人国際ボランティア学生協会(IVUSA) 印旛沼クリーン大作戦チーム

2026 年 8 月 19 日、千葉県佐倉市において、学生 42 名と事務局 1 名が多数の地域関係者様と共に「印旛沼クリーン大作戦」を実施いたしました。

急遽の変更と地域への想い

当初の計画では、19 日に佐倉市での清掃活動を行い、続く 20 日・21 日には印西市にて特定外来生物である「ナガエツルノゲイトウ」の除去作業を予定していました。しかし、直前に発生した「令和８年８月千葉豪雨」の甚大な被害により、予定していた除去作業の実施が不可能な状況となりました。

これを受け、急遽後半の２日間を「災害救援活動」へと切り替える決断を下しました。突然のスケジュール変更ではありましたが、学生たちは「ナガエツルノゲイトウの除去以外にも、これまで温かく見守り、お世話になってきた地域のために今自分たちにできることは何か」を真摯に考え、前向きに活動へ臨みました。

開会式では、関係者様より「この場所を活動場所に選んでくれてありがとう」という温かい歓迎とお礼のお言葉をいただきました。これに対し、本活動のリーダーである山浦壮平（日本大学３年）からは、「予定していた活動内容は変わってしまいましたが、印旛沼地域の方々のためになることを目指し、このクリーン大作戦を開催しました」との力強い挨拶がありました。その後、参加者全員で円陣を組み、気合を一つにして作業を開始しました。

【午前】豪雨被害への対応と清掃活動

午前中は「ふるさと広場の水草園」と「臼井第二機場」の２箇所に分かれ、それぞれの担当区域で活動を開始しました。いずれの現場も千葉豪雨の影響により大量のごみが打ち上げられており、その回収作業に尽力しました。

水草園：漂着ごみの回収に加え、モグリウムの清掃作業も実施し、周辺環境の美化に努めました。

臼井第二機場：ごみ拾いと並行し、重機によって事前に抜き取られたナガエツルノゲイトウの運搬作業に取り組むなど、効率的な作業を意識しました。

【午後】厳しい暑さの中での助け合い

午後も引き続き２拠点に分かれて作業を進めました。午前中以上に厳しい猛暑に見舞われる環境下での活動となりましたが、学生同士で積極的に声を掛け合い、水分補給や体調管理を互いに気遣いながら協調して作業にあたりました。「印旛沼の環境を少しでも美しくしたい」という共通の強い思いのもと、一人ひとりが自分にできる役割を主体的に考え、最後まで責任を持ってやり遂げました。

一日の振り返りと救援活動へ向けた心構え

一日の活動終了後には班ミーティングを実施しました。その場で学生代表の徳力煌陽（立命館大学４年）より、翌日からの災害救援活動に向けた心構えや、具体的な支援作業の内容について説明がなされました。今回の活動では、災害という不測の事態により急遽大幅な方針転換が求められる場面がありました。しかし、参加者一人ひとりが混乱することなく冷静に状況を判断し、柔軟かつ互いに支え合いながら行動できたことは大きな成果です。

終わりに 本活動の開催にあたり、多大なご理解とご協力を賜りましたすべての関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。私たちは今回の経験と学びを胸に刻み、今後も持続可能な地域づくりと環境保全を目指して、自分たちにできる課題解決に挑戦し続けてまいります。最後になりますが、このたびの豪雨により被害を受けられた地域の１日も早い復旧･復興を、心よりお祈り申し上げます。

令和８年８月千葉豪雨後の災害救援活動報告
―IVUSA の活動報告ブログから―

IVUSA（国際ボランティア学生協会）は全国 82 大学の 3,000 名以上の学生が所属するボランティア団体で、国際協力、環境保護、災害救援、子供の教育支援、地域活性化、という５分野の活動を行っています。

2026 年８月 13 日～14 日の「令和８年８月千葉豪雨」では、千葉県に線状降水帯が発生して 24 時間雨量が 200mm を超える記録的な豪雨となり、あちこちで浸水被害が出ました。IVUSA では、８月 19 日から佐倉市で支援活動を開始し、９月 13 日現在第５次隊が活動しています。

８月 19 日には佐倉市社会福祉協議会でボランティア登録を行い、さっそく志津地区の被災状況を確認し災害救援活動を開始。被災した数軒のお宅から、家財の整理やごみの分別などの困りごとをお聞きしました。

８月 20 日には、「印旛沼クリーン大作戦」に参加していた学生が１次隊に合流し、学生 46 人、事務局２人、卒業生３人で、現地活動をスタートしました。

午前は、いくつかの現場に分かれて清掃や家財の運搬を行いました。猛暑の中、互いに協力しながら取り組みました。

午後も、午前と同じく家財の運搬と清掃をしました。また、被災された方々のニーズを直接ヒアリングする調査も進めました。

途中で住民の方から直接感謝の言葉をかけていただき、暑さで疲れた体が本当に癒やされました。このような地域の方々の優しさに触れ、一層励みになり、午後の作業も全員で元気に乗り切ることができました。

８月 21 日も、被災された住民の方々のニーズに寄り添いながら、それぞれの状況に応じた支援活動を行いました。また、道路の清掃や川沿いのフェンスの清掃にも取り組み、現地の被害の大きさを改めて実感しながら、第１次隊のミッションを無事に終了しました。　　（文責：小倉 久子）

TEIRE プロジェクト vol.2 に参加して

令和７年度よりスタートした「TEIRE プロジェクト」の vol.2 が９月 18 日（金）午後１時より、佐倉ふるさと広場前の臼井田植生帯で開催されました。

主催は八千代エンジニヤリング株式会社です。これは、企業が行う研修の一部として現地で社会貢献活動をイベント化したもので、一般参加者へも募集があり参加しました。参加者は社員 40 名と NPO いんば、印旛沼流域水循環健全化会議、環境パートナーシップちば、地元の有村建設、ちば部の呼びかけからの参加者など 50 名近くでした。

実施場所は８月の千葉豪雨で水没しましたが、当だより 4 ページに記載の IVUSA の協力も得て、作業が出来る状況に回復していました。

作業を始める前に、「TEIRE プロジェクト」vol.1 の NPO いんばの園原さんから、印旛沼の水草を佐倉市内の小学校で育てている支援と、間野台小の水草お里帰りイベントの内容について説明がありました。このイベントには、当会賛助会員の千葉興業銀行の協力もありました。（だより 166 号掲載）

植生帯の中ではナガエツルノゲイトウ等外来種駆除と周りの草刈り作業です。九州や大阪から参加された社員の方もあり、笑顔があふれ楽しく作業されていました。そこに一般参加者も加わり交流も進みました。

約２時間の作業で、植生帯も周りもすっきりとなりました。参加された方のすがすがしいお顔が印象的でした。台風 25 号の予報では九州に近づくとの事でしたので、「気をつけてお帰り下さいね」とバスを見送りましたが、まさか千葉県、印旛沼の被害が甚大になろうとは、その時は思いませんでした。

今回の活動が企業の活動モデルになり、多様な主体が印旛沼の環境への取組が進むことを、健全化会議の委員としても強く思いました。

(文責：桑波田 和子)

「第 13 回Ｅボート千葉大会 in 浦安」開催のご案内

開催日時　2026 年 10 月 18 日（日）10:15～13:30

会場：浦安市境川　しおかぜ歩道橋周辺
主催：E ボート千葉大会浦安実行委員会
共催：第 25 回川に学ぶ体験活動全国大会実行委員会
後援：千葉県・浦安市・浦安市自治会連合会
問い合わせ先：eboat.chiba.urayasu@gmail.com

E ボート千葉大会の第１回は、2011 年に鹿島川の印旛沼のほとりで開催されました。その後 2014 年第４回からフェスティバルウォーク蘇我前の港湾海域で開催され、2019 年のコロナで開催断念。このままでは千葉大会がなくなるという危機感のもと、浦安の境川での開催を検討しました。当時、境川かわまちづくりに取り組む浦安市の応援もあり、2023 年に第 10 回として浦安の地で再開ができました。千葉大会の応援者の皆様にも喜んでいただき、その後も予算はないけれど浦安で４回目の開催が継続できることになりました。
E ボートとは、子どもからお年寄りまで誰もが安全に水辺を楽しめる、10 人乗りのゴム製手漕ぎボートで、約 30 年前に NPO 地域交流センターなどによって考案、人々が気軽に川に集まり、水辺の自然や環境を見直すきっかけを作る「川体験の入門編」として開発されました。
頭文字の「E」には、**Exchange（交流）、Earth（地球）、Environment（環境）、Eco-Life（エコライフ）、Enjoyment（楽しみ）、Education（教育）、Entrance（入り口）、Emergency（緊急時）**などの意味が込められています。
今回は、第 25 回川に学ぶ体験活動全国大会と共催となり、境川沿いの賑わいも楽しみにしているところです。みなさまの観戦と乗船体験参加の応援をお待ちしています。

（文責：横山 清美）

＜タイムスケジュール＞

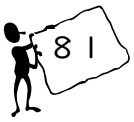
8:30　受付開始
～9:50 試漕 (観覧可能)
10:15 開会式
10:30 第１次予選
11:35 第２次予選
13:00 ３位決定戦・決勝
13:20 閉会式・表彰式

＜「境川かわまちづくり」関連事業 ＞

14:00～15:00 カヌー・E ボート乗船体験会
1 人 1 回 15 分程度/500 円/閉会式後受付開始/先着順

＊開催中キッチンカーやミニ縁日も出ます

県内の環境保全活動人（団体）紹介　―　81　―
おききしました！　この人・この団体



グリーン・エコ株式会社（千葉市若葉区）

「まず100%リサイクル」の先へ～ 学生と訪ねた資源循環の現場～

8 月 17 日、学生団体おりがみの学生たちと、千葉市若葉区のグリーン･エコ株式会社を訪ねました。訪問の目的は二つ。若者が主役の環境保全活動応援事業のスタディツアーと、エコメッセちば 2026 に向けた団体インタビュー（動画撮影）です。同社には受入団体として学生を迎えていただきました。エコメッセちばへの出展は、今年が初めてです。

2012 年設立、従業員 25 名。関東１都６県（昨年群馬県も取得したため）の許可を持つ産業廃棄物の収集運搬が本業で、食品残渣や廃プラスチック、汚泥などを扱います。ドラム缶・パレットのレンタル、リユース品の買取・販売、アップサイクル商品の製作も手がけています。

【学生がこの会社を選んだ理由】

学生が書いた企画書の「動機」欄には、こうあります。「環境問題を『我慢』や『制約』ではなく、暮らしをより心地よく、おしゃれにするきっかけとして発信できると感じた」。ドラム缶のソファ、カップ麺の麺を原料にしたクラフトビール。若い世代の目に、この会社の取り組みはそう映っていました。

【ドラム缶のソファ、麺のビール】

敷地には回収したパレットが積まれ、その脇にドラム缶のソファがありました。社員の方が自分たちでドラム缶２個を溶接してつないだもので、テレビでも特集されたそうです。ビールは第１号がカップ麺の中華麺、第２号がシュークリームの生地。発想は「大麦の代わりに小麦を使えないか」。代表の田渕浩太さんが街のクラフトビール醸造所を片っ端から当たり、形にしました。水を入れて１個１トンになるレンタル品が海外サーカスの舞台を支える支柱になり、販売したポリドラム 50 個が船の桟橋になる。そんな話に、学生も私も驚きました。

【順番を逆にしない】

「商品を作る、アップサイクルをする側から入る人は結構多い。でも僕は、まず大前提として、廃棄物として大量に出てくるものをどうしたらいいか、という目線から考えていく」。まず 100%リサイクルできるルートを確立し、その上でアップサイクルへ進む。田渕さんの言葉です。一方で、アップサイクル商品は一部のイベントで買ってもらえる程度、売上の柱にはなっていない。そうも正直に話してくださいました。「綺麗なところだけでなく、会社のリアルな部分も記事にしてほしい」。この姿勢こそが、同社の信頼の源だと感じました。

【エコメッセちば 2026 では】

ドラム缶に描かれた渦巻きのロゴにも意味があります。「団体や企業、取引先、近隣の人などグリーン・エコに関わる方々を巻き込んで、共にどんどん大きくなっていきたい」。10 月 11 日（日）のエコメッセちば 2026 では、SDGs マルシェに出店されます。出品は、パートナー企業と作った未利用資源のアップサイクルジェラート。学生が撮影したショート動画も、エコメッセちば公式 SNS で公開予定です。ジェラートを片手に、ドラム缶やビールの話もぜひ直接聞いてみてください。

グリーン・エコ株式会社
https://green-eco-kk.com/

（文責：土谷 悠太）

ドラム缶ソファー

アップサイクルビール

運営会議報告

８月度運営会議

８月８日（木）20:00～22:10
会場：オンライン（Zoom）

【報告】
・会員交流サロン開設 7/12，8/9
・若者が主役の応援事業
　エコメッセちば 2026 会場出展
　アイデアコンテストについてヒヤリング実施 8/13
　スタディツアー実施 8/8，17，24，29
・千葉市公民館講座（7/22，30，31）
・エコメッセちば運営委員会 8/6　他

【協議】
・だより 171 号　構成検討
・会員交流サロン開設　9/13
・若者事業　アイデアコンテスト募集締切り 8/31
・千葉興業銀行との連携　10/17 印旛沼オニビシ観察
・会員企画提案 討議
・NPO 法人水環境研究所との連携事業
・環境フォーラム開催 12/19　　他

９月度運営会議

９月１０（木）20:00～21:40
会場：オンライン（Zoom）

【報告】
・若者が主役の環境活動応援事業(応募７団体)
・エコメッセちば 2026 出展者説明会 9/8
・千葉興業銀行との打ち合せ　8/28
・ESD プログラムに関する相談 8/26

【協議】
・だより 171 号　進捗
・会員交流サロン開設　9/13
・若者事業　エコメッセブース内容検討
・環境フォーラム開催　12/19
・会員企画提案　9/13 の交流サロンで相談
・NPO 法人水環境研究所との連携事業 湧水めぐり
　１月に実施予定
・その他

お知らせ

水俣病 70 年展～命は美しい～

日時：2026 年 11 月 25 日（水）～12 月 3 日（木）
　　午前 10 時～午後 9 時
会場：渋谷ヒカリエ９階ホール
主催：水俣フォーラム
後援：環境省ほか
展示：水俣病事件の事実は現代日本に
　　何を物語るのか
ホールプログラム：
　「私と水俣病」―患者さんのお話から
　「水俣病の映画から考える」
チケット：チケットぴあ、ローソンチケット
詳細：認定NPO 法人 水俣フォーラム ホームページ

環境フォーラム
「環境問題から考える平和な社会（仮）」

日時：2026 年 12 月 19 日（土）14:00 ～16:30
会場：江戸川大学Ｅ棟　映像ホール
　　（流山市駒木 474）
定員：350 名
参加費：無料（要 申込み）
共催：江戸川大学・NPO 法人環境パートナーシップちば
後援：流山市（予定）
問合せ先：環境パートナーシップちば
　　（info@kanpachiba.com）

「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ
事務局：〒262-0006　千葉市花見川区横戸台 21-13　特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば
Tel　：　090-8116-4633　　E-mail：info@kanpachiba.com
ホームページ：https://kanpachiba.com/
※会費や会員申し込みなどの情報は上記 ＨＰでご確認ください。